

— 平成30年度全国学力・学習状況調査 —

気仙沼市の学力・学習状況の概況について

【教科に関する調査結果】

小学校6年(以下小6)では、「国語」は、「知識」に関するA問題(以下A問題)、「活用」に関するB問題(以下B問題)ともに、全国正答率(以下全国値)を下回りました。「算数」は、近年、徐々に全国値に近づく傾向でしたが、本年度は、全国値を下回り、その差が大きくなりました。「理科」は、全国値を若干下回りました。

中学校3年(以下中3)では、「国語」はA問題で全国値を上回り、B問題は同等でした。「数学」は、A・B問題とも全国値を下回りました。しかし、全体の傾向は、全国値に近づいています。「理科」は、全国値と同等でした。

【生活習慣や学習状況の調査結果】

小6、中3とも地域・社会への関心や規範意識、学習習慣、生活習慣など、多くの項目で全国平均値、県平均値ともに上回りました。中3の自尊感情がやや低い傾向となりました。

〈表1〉平均正答率の経年変化

※宮城県()は仙台市を除いた県平均正答率

			「知識」に関するA問題				「活用」に関するB問題			
			全国(%)	宮城県※(%)	気仙沼市(%)	標準化得点(全国を100)	全国(%)	宮城県※(%)	気仙沼市(%)	標準化得点(全国を100)
小学6年	国語	H30	71	69(67)	69	98	55	53(52)	52	95
		H29	75	74(73)	75	100	58	56(54)	59	103
		H28	73	72	69	95	58	56	55	94
		H27	70	70	69	98	65	64	65	100
		H26	73	74	73	100	56	54	54	97
	算数	H30	64	62(60)	60	94	52	49(47)	47	91
		H29	79	77(76)	78	99	46	44(42)	45	98
		H28	78	77	75	97	47	46	43	92
		H27	75	74	72	95	45	43	41	90
		H26	78	77	76	98	58	57	55	94
理科	H30	60	59(57)	59	98	理科については、AB混合問題				
	H27	61	60	58	96					
中学3年	国語	H30	76	77(75)	77	101	61	62(59)	61	100
		H29	77	77(74)	76	98	72	73(70)	72	100
		H28	76	77	77	101	67	68	66	99
		H27	76	76	73	97	66	66	62	95
		H26	79	80	80	101	51	52	51	99
	数学	H30	66	65(61)	63	95	47	47(43)	45	96
		H29	65	63(59)	61	94	48	47(44)	45	94
		H28	62	60	57	91	44	44	39	89
		H27	64	63	59	92	42	41	37	89
		H26	67	66	64	95	60	59	57	95
理科	H30	66	67(64)	66	100	理科については、AB混合問題				
	H27	53	54	51	96					

◇標準化得点(以下標準点)は、全国の平均正答率(小数点以下第1位の数値)を100としたときの気仙沼市の値(市平均÷全国平均)で、年度間の比較の参考とするもの。

【概要】

- 調査実施日 平成30年4月17日(火)
- 実施学年及び教科 小学6年:国語, 算数, 理科 中学3年:国語, 数学, 理科
- 参加状況 小学校15校:438人, 中学校11校:492人

●教科に関する調査結果

- (1) 「小6国語」A・B問題ともに全国値を下回った。観点別にみると、A問題の「書くこと」は全国値を上回ったが、「話す・聞く能力」「言語についての知識・理解・技能」、B問題のすべての観点で全国値を2ポイント程度下回った。
- (2) 「小6算数」A・B問題ともに全国値を下回った。特に、B問題の正答率が低いという結果となった。観点別にみると、A問題の「数学的な技能」「数量や図形などに関する知識・理解」が、全国値を2~4ポイント下回った。B問題では、「数学的な考え方」が全国値を5ポイント下回ったが、「数量に関する知識・理解」は、5ポイント上回った。
- (3) 「小6理科」は、知識に関する問題で2ポイント、活用に関する問題で1ポイント全国値を下回った。観点別では、「自然事象についての知識・理解」が全国値を上回ったが、他の「自然事象への関心・意欲・態度」「科学的な思考・表現」「観察・実験の技能」は全国値を下回った。前回調査(H27)からみると、全国値に近づいている。
- (4) 「中3国語」A問題は全国値を約1ポイント上回り、B問題は全国値とほぼ同等であった。観点別にみると、A問題の「話すこと・聞くこと」「書く能力」「読む能力」、B問題の「話す・聞く能力」で全国値を上回った。
- (5) 「中3数学」A問題で3ポイント、B問題で2ポイント全国値を下回った。観点別では、A問題は、「数学的な技能」「数量や図形などに関する知識・理解」とも3から4ポイント全国値を下回った。B問題では、「数学的な見方・考え方」「数学的な技能」とも全国値を2ポイント下回った。
- (6) 「中3理科」A・B混合問題であり、全国値と同等であった。観点別にみると、「自然事象への関心・意欲・態度」が1.5ポイント下回ったが、その他の3つの観点「科学的な思考・表現」「観察・実験の技能」「自然事象についての知識・技能」は、全国値と同等あるいは上回る結果であった。前回調査からみると、正答率があがり、全国値と同等になった。

●児童生徒質問紙に関する調査結果

- (1) 基本的な生活習慣
 - ・ 朝食摂取、起床時刻や就寝時刻等の基本的な生活習慣は、小学生は、全て全国値を上回った。中学生は、毎日決まった時間に起床する生徒の割合が全国値をやや下回ったが、他の項目は上回った。
- (2) 家庭での学習習慣
 - ・ 家庭での学習については、家庭学習の習慣化が図られてきたことが伺える。自分で計画的に学習を進め、予習・復習をするなどの項目で、小中ともに全国値を上回った。平日の学習時間については、3時間以上の割合は全国値より低かったが、1時間以上の割合は全国値よりも高かった。
- (3) 学習に関する関心・意欲・態度
 - ・ 小学生においては、5年生時までに課題解決に向けた主体的な取組をしていた割合と話し合いによる自分の考えの深化・拡充をしていた割合が全国値よりも低かった。
 - ・ 中学生においては、2年生までに課題解決に向けた主体的な取組をした割合が全国値よりも高く、授業で自分の考えを相手に伝えるように工夫して発表した割合も高かった。
 - ・ 小・中ともに、理科が好きだ、大切だという割合が全国値よりも高かった。授業内容がよく分かるという回答や自分の考えを周囲の人に説明することについても全国値を上回った。
 - ・ 理科で学習したことが将来役に立つと考えている児童・生徒が全国値を上回った。

- (4) 学力・学習状況調査の解答時間
- ・ 国語，算数，理科の全てにおいて，解答時間が足りないと感じた児童・生徒の割合が全国値よりも多かった。特に，B問題についてその傾向が強かった。
- (5) 自尊感情，規範意識，社会・地域貢献に関連する事項
- ・ 自尊感情に関する質問への肯定的な回答の割合は，小中ともに増加したが，依然として全国値を下回っている。教師に自分のよいところを認めてもらっていると回答している割合は，ほぼ全国値と同等であった。
 - ・ 将来の夢や目標をもっているかに関する質問では，小学生が全国値を上回ったが，中学生は全国値を下回った。
 - ・ 規範意識に関する質問では，肯定的な回答の割合が高く，全国値とほぼ同等であった。いじめは許されないという認識は中学生が全国値よりも高かった。
 - ・ 将来人の役に立つ人間になりたいと回答している割合は，小・中学生とも全国値と同等であった。地域の出来事への関心や地域や社会をよくするため具体的な考えは，小学生は，全国値を下回ったが，中学生はいずれの項目も全国値を上回った。

●学校教員を対象とした質問紙に関する調査結果

- (1) 対象となった学年の学級編成等について
- ・ 小学校5学年時に単学級だったという割合が，全国値より大幅に高かった。
- (2) 学力・学習状況調査の結果をうけた指導計画や指導の改善について
- ・ 教育活動に必要な地域の人的・物的資源等の効果的な活用は十分行われていると回答した学校が多く，全国値を上回った。
 - ・ 大型提示装置等のICTを活用した授業の週1回以上の実施は，中学校は，全国値を上回ったが，小学校は全国値よりも低く，小学校でのICTを活用した授業の実施割合が低かった。
 - ・ 昨年度の調査結果の分析結果を，当該学年だけでなく，学校全体で教育活動を改善するためによく活用した割合が全国値を下回った。

●今後の対応

今回の結果の要因は，主に次の5点と考える。

- (1) 結果を踏まえた改善策の実施について
- ・ 「活用する力」を育成するための授業の改善など，これまでの結果を踏まえた改善策が，学校経営の中で，全学年に対して確実に実施されていなかった。
 - ・ 近隣小中学校との分析や対策についての連携が不足し，継続的かつ効果的な改善が実施されなかった。
- (2) 教育委員会による改善策実施の確認と助言について
- ・ 市内各学校において，結果の分析に基づいた改善策を立てていたが，学校質問の回答からみると，当該学年以外の学校全体として改善策の取組が十分に行われていないことから，教育委員会による確認と効果的な実施への助言が不足していたと考える。
- (3) 教職員の研修について
- ・ 今求められる学力についての理解と，授業の改善を図るための研修が十分ではなかった。
- (4) 授業改善について
- ・ 児童・生徒一人一人が「何が分かったか（できるようになったか）」を実感し，学びによって自己有用感や自己肯定感がもてる授業が十分に行われなかった。
 - ・ 習熟度に応じた指導が十分に実施されず，下位群の底上げを図るとともに，上位群のレベルアップが図られなかった。
 - ・ 基礎的基本的な知識・技能を用いて活用する力を高めるための指導が，授業の中で十分に行われなかった。

(5) 児童・生徒の学びの環境について

- ・ 学級内での学び合いや学年内で切磋琢磨しながら学びや活動を深める環境が整えられなかった。

これらのことを踏まえ、次の事項を重点として、指導の工夫改善を進める。

(1) 各学校における改善策の確実な実施

- ・ 各学校において、分析に基づいて立案した改善策（特に「活用する力」を高める指導）について、当該学年だけでなく、学校全体で確実に実施し、実施状況の確認をする。
- ・ 分析や対策については、近隣小中学校との連携を密にし、小中が継続的に取り組む事項を整理し、確実に実施していくようにする。

(2) 教育委員会の改善策実施状況の確認と指導・助言の充実

- ・ 市教育委員会としても各学校での改善策の実施状況の確認を行う。
- ・ 実施状況に応じて、改善策が効果的に実施されるよう必要に応じて助言等を行う。

(3) 教職員の学力に関する理解と授業力向上を図る研修の充実

- ・ 各学校において本年度の問題の分析や対策についての研修等を行い、全職員が各教科の活用問題や正答率の低かった問題に取り組み、職員間で協議する時間を設定し、今求められている学力についての理解を深める。
- ・ 気仙沼市学習状況改善事業の実践校の取組成果を市全体に普及するための研修会を実施し、学力・学習状況の課題解決に向けた取組を進められるようにする。

(4) 授業改善

① 一人一人が主体的に学習し、学びが実感できる授業実践

- ・ 一人一人の児童・生徒が、学習について課題意識をもち、自力解決やグループ解決の学習によって課題を解決し、学びのよさを実感できるように、どの学校にも共通する学習の流れの基本型をつくり、市内の各学校で実践する。

② 習熟度に応じた指導の充実

- ・ 授業や補充的な指導のなかで、基本的な知識・技能を習得させるための少人数指導の機会を増やし、全体的な底上げを図るようにする。

③ 活用する力を育成する授業実践

- ・ 本市内の各学校において地域の素材や人材を活用した多様な学びが展開されていることを生かし、資料の活用や比較・分析の方法、考察の仕方等についての指導を発達段階に応じて位置付け、各校で実践する。

(5) 学び合い、競い合いができる教育環境整備

- ・ 子供たち同士の学びあいや競い合いができ、さらに、学力向上について教師同士が互いに学び合いができるように、義務教育環境整備を進める。